2012 年度報告書（研究員）

氏　名	小島　剛
職　位	短時間研究員

研究概要

2012 年度は、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災およびそれに伴う福島第一原子力発電所の事故に関する社会学的な研究を行ってきた。2011 年より様々な情報や学説が出される中で、学者たちの出してきた学説が今回の原子力発電所事故の布石として大きな意味があったことを中心として、なぜこのような事故を生み出してしまうような学説が、「正しい学説」としてまかりとおってきたのかを研究してきた。

2011 年度より、総合研究大学院大学の伊藤憲二教授とともに連絡を取り合ってきたが、2012 年 8 月にお話を頂き、11 月に総合研究大学院大学にてセッション「『御用学者』とはだれか？：科学技術をめぐる知的生産と利害関係の社会論序説」を開くことになった。オーガナイザー兼発表者として「御用学者を批判する際の認識論的基礎づけ」と題する発表を行ったが、この発表の中で「御用学者」という通俗的に使用されるに過ぎない言葉を「様々な資本を十分に持っている社会的アクター(行政や大企業など)から利益供与を受けており、かつ、その社会的アクターに資するために、科学的に十分に誤謬性を主張しうる程度に、間違った見解をあたかも科学的見解であるかのように発表している」者と定義づけ、学術的に使用できる言葉とすることを試みた。

2011 年以降今まで原発をめぐってタブーとされてきたことについて多くのことがわかってきた。例えば原発労働者の被ばくなどだが、このように明らかになってきたことについて「なぜ今までわからなかったのか」という疑念がわく。そこで、国民が知っていて当然のことが、利益供与などによって隠されてきたのではないか、あるいは、ゆがめられて伝えられてきたのではないかという考えのもとにこのような発表の場を企画したのである。

業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）

小島　剛「御用学者を批判する際の認識論的基礎づけ」科学技術社会論学会、於総合研究大学院大学、2012 年 11 月 17 日。